

田子の浦に打ち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつゝ (山部赤人)

カルタ取りや せんべい釣りを

横越下部落子供会実施

「明るい家庭づくり」の指定により、活発な子ども会活動指導されている「百人一首」を紅白に別れての対戦をする部活では、去る十八日午前九時三十分から、横越村公民館二階和室に於て「カルタ大会」を催し、吹雪一日を乗りこした。

下部落子ども会は現在六十名の子とも加入して居り、当日は、折から募集している「風邪のため四十四名の参加で、ゲームを開始した。

一年生か四年生までは、それぞれ年代に応じた「いろはカルタ」に取組み、役員は父兄が親子の頃にやった「せんべいつき」を用意し、子ども達は交番で盛んに「針」を打っているが、上手に釣り上げられるのは「カルタ」を取り合ひ、元氣な声でカルタを取り合ひ、その賑わいを見せた。



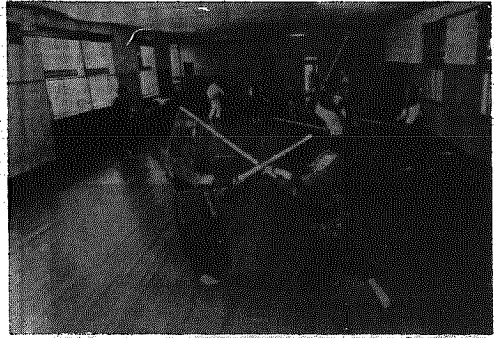
せんべい釣り

商品の知識を学習 横越分館の12月消費者講座

横越分館の商品を求める場合には、各、判断力をもつよう講話が、通年制(マイカーのメンテナンス等)を毎月一回)みて検討して購入する等々、消費者自身が、その意識を高め、費への挑戦」を鑑賞した。

「かしこい消費者」を中心とした講話で、恵まれた物質文明の中にあつて、多種多様な商品の中で、消費生活に潤利と不利益を与えられている面が多い。

繊維、合成樹脂加工、電気機器、雑貨工業等の品質表示の商品の知識を始め、一ツ



剣道練習風景

村指定の史跡の紹介

たけべ 建部・小林大庄屋跡

どこの村にもそれぞれ歴史があるように、わが村にも古い歴史があります。

その歴史を物語る史跡がこの村にもいくつかあり、それらの史跡の中でも、特に重要と思われるものについては「村指定の史跡」となっています。

昨年の暮、この村指定の史跡近くに「村指定史跡案内標識板」を建てました。建てた場所及び史跡名は次のとおりです。今月号から一つづつ紹介していきます。どうぞ身近く、お立ち寄りの際は、是非一度目をむけ、過ぎし日の横越村を思い浮かべていただければ幸いです。

一、奥蔵第二回内、建部・小林大庄屋跡

二、七三三年間新築出藩(溝口藩)

この領地としてその支配下にあつた。この間出陣と呼ばれる地域全体は、横越島と称され、この島内に雅楽時代には約百三十か村の村があり、この中には一部派海藩領、後に天領等の介在して、これを除いた一三か村が新築田藩領であつた。

新築田藩は、行政上最初百十三か村を横越組、蒲原組の二つの組にまとも、大庄屋を設置して治めていたが、一七三八年(元文三年)これを蒲原、横越組の一ツにまとめ横越に二人の大庄屋を置いた。建部、小林の両家である。両家は堀を隔てて隣り合っていた。尚、建部、小林の大庄屋の前に坂井、曾我の名もあつた。

豪雪も熱気で吹飛ばし 村内武道三連盟競開き

村体育協会傘下の、柔道、剣道、銃道三連盟が、折から開き、折々下り雪を襲いつつ、汗を流す、このあつた。参加の選手は「中合せ稽古」(柔道は組手、折からの雪も吹き飛ばすように「エイッ」「ヤッ」の鋭い気合で、熱気した練習が行われた。正午すぎ練習を終り、中学校の柔道部員は公民館で佐藤会長の挨拶のあと、おしるごに交えての「みかん」、「シュー」で汗の練習後を慰ました。

柔道は、投合、打込み、腕下、小手等の打ち込み基本練習、汗を流す、このあつた。参加の選手は「中合せ稽古」(柔道は組手、折からの雪も吹き飛ばすように「エイッ」「ヤッ」の鋭い気合で、熱気した練習が行われた。正午すぎ練習を終り、中学校の柔道部員は公民館で佐藤会長の挨拶のあと、おしるごに交えての「みかん」、「シュー」で汗の練習後を慰ました。



柔道練習風景

第二回ボウリング大会 五十六名で熱戦

仲村進(二本木中)優勝 ハイゲーム賞も獲得



一月二十五日、新津ミナミボウルを会場に第二回村民ボウリング大会が開かれた。この大会は昨年同様、村体育協会が主催したもので、午後から同ボウリング場を貸切り、子どもも大人まで五十六名が出場、応援者も含めると七十名を数え、熱闘ボウリングを一時する盛大な大会であつた。

午後一時、横山智子さんの選手宣誓、佐藤勝男村体育協会会長が挨拶のあと、熱闘がくりひろげられた。

試合は、三ゲームトータルミロール方式で行われ、仲村進さんがそれぞれ優勝した。

成績は次のとおり

| | | |
|----|-------|-----|
| 一位 | 仲村 進 | 二五〇 |
| 二位 | 伊藤 泰代 | 五五八 |
| 三位 | 神田 健一 | 五四六 |
| 四位 | 中川 均 | 五四六 |
| 五位 | 小林 武夫 | 五三九 |

ハイゲーム賞 仲村 進

二四〇

「豪華の手土産」 新築に埋もれた 北方文化博物館の蔵

沢海の北方文化博物館は大地主伊藤家の本宅で、豪農の館として維持保存されてきたもので、約六、〇〇〇坪の敷地に、明治二〇年の建造で、建坪一、二〇〇坪に及ぶ全園でも屈指の豪華な構である。庭園は点在する茶室と、おびただしい名石によって構成され、庭の型は遠く室町時代に完成された、藤澤式建築庭園と称するもので、変化に富む庭を一貫するに、どちらから見ても異ならない、四方正園につくられている。

近年、全国的に好まが認められ、内外の観光客で賑わっている。

